

『子煩惱で優しい夫、絶倫雄々野獣形態に戻る』の読者へのアンケート調査詳細

アンケート調査詳細

調査期間	2025年11月21日～2025年11月22日
調査対象	『子煩惱で優しい夫、絶倫雄々野獣形態に戻る』の読者10名
調査方法	クラウドソーシングを利用したアンケート
調査内容	『子煩惱で優しい夫、絶倫雄々野獣形態に戻る』を実際に購入して読んだ口コミ

→使用サイト：<https://maipenrai-inc.co.jp/manga/kobonnoudeyasasiotto/>

アンケート質問内容

質問1. 年代・性別

質問2. 『子煩惱で優しい夫、絶倫雄々野獣形態に戻る』を実際に読んだ感想

アンケート結果

年齢・性別	感想
40代男性	大迫力で描かれていますが、要は愛妻家です。しっかりと身体を含めて「愛する」ということが伝わってきます。マッチョ体型はやり過ぎなくらいに大きく描かれていますが、むしろこれが特徴なのでいいと思います。子煩惱パパの変容という点ではかなりギャップがありますが、そこがいいのかな。普段は優しくても燃えると変わるタイプです。
30代女性	この作品の注目ポイントといえば、本当に同一人物なのかと疑いたくなるくらい夫の豹変具合がヤバいということです。優しいお父さんから、まるで獲物を狙う肉食獸くらいい銳い眼光になっていました。そんな獣のようになんて、ちゃんと奥さんや子どもへの愛情を忘れていないのは素晴らしいと思います。夫婦の形についても考えさせられる、深いストーリーも良かったです。
40代男性	激しいタッチの割には、やってること普通かな～とは思いました。ただ、画力は素晴らしいのでこの作風でもっと見てみたいと思われます。偶然子どもがいない連休が出来て、その隙に…という流れですが、かなり溜まっていたのか、結局お互いドキドキしています。NTRばかり見ていた私にとってはかなり新鮮な作風で、パートナーっていいなと思いました。
40代男性	「ギアはいっちゃってる」と得意げなのがいいですね。オス感丸出しで徹底的に攻めるんですが、溜まった欲求をぶつける先が妻というのもいい。奥さんも次第にペースに飲み込まれていき、ふたりで盛り上がりがちゅってます。もしこの光景を目撃したら子どもはショックでしょうね。ハードに堕ちていくふたり。内面までしっかり伝わります。
40代女性	結婚して10年で、しかもすでに子供が2人いて。ということはそれなりの年齢にもなっているでしょうが、変わらず鍛え上げられた体。そして奥様への愛も変わることなく。なんて理想的な夫

	なのでしょう。とはいえる様もまた、二人も生んだとは思えない体形が保たれている。愛の力って偉大ですね。こんな夫婦憧れちゃいます。
40代男性	欲望、煩悩まみれのパパ。夫婦ってどうやってもマンネリ化してしまうのですが、ある種のカンフル剤としての役割はあるのかも。そんな風に思ってくれる内容でした。まさに野獣とか、本能のままに暴れ回っているのがいいですね。こんなことしてたらいくらでも妊娠しそうですが…まあ奥様も幸せそうなんでいいのかな。
20代男性	旦那さんが行為中に豹変し支配していくように感じさせるところや冒頭の快活で子煩悩なところが、リアル過ぎず現実離れし過ぎずで良かったなと感じました。フィクション過ぎてもリアル過ぎても萎えてしまうので、丁度バランスだと思いました。奥さんの体の描き方や溜まっていってる表情などが、The男が好きな女性といった感じで素晴らしいです。同じ作者さんの作品があればリピートしたいと思います。
30代男性	この作品は、子どものために長らく我慢していた夫婦の欲求不満が解放されるのを、リアルに描けているのが良かったです。夫はまるで野獣のような雰囲気になるのですが、序盤では優しい夫として描かれていたのでそのギャップに結構ビックリしました。ヒロインもそんな夫に激しく攻められながら、ちゃんと愛情も感じているところが素晴らしいです。
30代男性	この作品に登場する夫がとにかくインパクトの強いキャラクターで、前半と後半ではまるで別人のような豹変具合を見せてくれます。さらに筋肉がとんでもなく発達しており、もはや人間離れしている体に思わず見とれてしまいました。奥さんを抱くときも、まるでライオンが獲物に食らいつくような野性的な姿が見て、カッコよかったですしこんな男になりたいと思わされました。
30代女性	イラストの体のつくりがやや非現実的で、内容が少し頭に入りにくく感じております。また、全体的にイラストが少しごちゃごちゃしていると感じました。文字が読みづらいと思う箇所もあったので、もう少し大事な箇所などはシンプルにイラストにしていただけますと、より理解しやすく、落ち着いて読み進められるかと思います。

夜ふかし漫画の学校

by(株)まいペんらい